

第 4 章 地域保健福祉の推進

第 1 節 健康危機管理

1 健康危機管理に関する研修会・連絡会

表 1 健康危機管理に関する研修会・連絡会の開催状況

(令和元年度)

実施日時 開催場所	内 容	参集者	参加 人数
令和元年 7 月 31 日 (水) 15:00～16:00 石川中央保健所	【健康危機管理研修会①】 「災害時の保健医療体制と E M I S の活用について」 ・管内における災害時の総合調整部門と情報伝達ルール ・広域災害救急医療情報システム (EMIS) について ・ E M I S 入力訓練 (期間内に各職員が入力する)	保健所 職員	21 人
令和元年 11 月 6 日 (水) 14:00～15:00 石川中央保健所	【健康危機管理研修会②】 「アクションカードについて」 ・非常時の保健所の役割について ・アクションカードについて説明	保健所 職員	19 人
令和 2 年 1 月 10 日 (金) 13:15～14:30 石川中央保健所	【健康危機管理研修会③】 「アクションカードを使った実働訓練」 ・グループ毎にアクションカードに沿った確認訓練 ・訓練を踏まえてアクションカードについて意見交換	保健所 職員	20 人
令和元年 12 月 26 日 (木) 14:00～15:00 石川中央保健所	【新型インフルエンザ対応訓練】 ・個人防護服着脱訓練	保健所 職員	15 人

※なお、例年開催していた「災害時医療関係機関連絡会」については、開催を予定していたが新型コロナウイルス対応のため中止とした。

第2節 関係機関との連携

1 地域保健・医療・福祉連携対策連絡会

表1 地域保健・医療・福祉連携対策連絡会の開催状況

(令和元年度)

会議名	実施日 開催場所	参集者	出席 人数	目的	会議内容
石川中央医療圏保健医療計画推進協議会	令和元年 8月29日(木) 県庁	医師会(県・郡市)、歯科医師会、薬剤師会、病院、病院協会、保険者協議会、食生活改善推進協議会、女性団体、市町、消防署、保健・医療関係者	34	地域保健・医療の基本的指針の策定及び充実強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の地域医療構想調整会議の進め方について ・外来医療計画について ・個別医療機関の病床機能の見直しについて ・地域医療構想の進捗状況について
	令和2年 2月6日(木) 県庁	医師会(県・郡市)、歯科医師会、薬剤師会、病院、病院協会、食生活改善推進協議会、女性団体、市町、消防署、医療関係者	34		<ul style="list-style-type: none"> ・外来医療計画について ・公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証について ・個別医療機関の病床機能の見直しについて
石川中央医療圏地域・職域連携連絡会	令和元年 11月20日(水) 県庁	全国保健協会、国民健康保険団体連合会、石川産業保健総合支援センター、石川中央地域産業保健センター、白山商工会議所、市町	17	地域保健及び職域が協働して健康づくりを進めるための課題を共有・検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率向上対策について ・職域と連携したがん検診の実施について ・健康づくり事業等の情報共有と活用推進について
石川中央圏域医療的ケア児支援連絡会	令和元年 9月27日(金) 県庁	市町(障害福祉、母子保健、子育て支援、教育等)、県担当課	34	障害保健福祉圏域ごとに医療的ケア児に関わる関係機関が連携を図るための協議の場を設ける	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「医療的ケア児が地域で暮らしていくためには？」 医王病院小児科 丸箸圭子 先生 ・石川中央圏域の市町における医療的ケア児支援の取り組みについて

※なお、例年開催している「保健所運営協議会」については新型コロナウイルス対応のため中止とした。

2 糖尿病重症化予防ネットワーク事業

糖尿病医療については、保健と医療が一体的に対策を推進することを目指して、石川県第6次医療計画（H25～）から、郡市医師会単位で取組んでおり、平成30年度から開始された石川県第7次医療計画でも引き続き推進することとなった。糖尿病患者の早期発見・早期治療や重症化予防のための診療連携体制の構築を図ることを目的としている。

表2 管内糖尿病重症化予防ネットワーク協議会の開催状況 (令和元年度)

	白山野々市地区糖尿病重症化予防ネットワーク協議会	河北地区糖尿病発症・重症化予防ネットワーク協議会
委員	公立松任石川中央病院、公立つるぎ病院、医師会、眼科医会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、白山市、野々市市、保健福祉センター	金沢医科大学病院、河北中央病院、医師会、眼科医会、歯科医師会、薬剤師会、職域（金沢医科大学、PFU）、かほく市・津幡町、内灘町、保健福祉センター
事務局	公立松任石川中央病院	金沢医科大学病院
協議会	3回 (但し3回目は新型コロナウイルス対応のためメール協議会とした。)	1回 (2回目は新型コロナウイルス対応のため中止)
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病重症化予防のための連携強化(糖尿病合併症検査「糖尿病ドックパス」の運用、利用促進チラシの作成・配布 ・医療従事者向け研修会・講演会の開催 ・コメディカル対象研修会の開催 ・住民向け出前講座、市民公開講座の開催 ・医師会員向け「白山野々市地区糖尿病重症化予防パンフレット」の修正・配布 ・歯科医師員会向け「白山野々市地区糖尿病重症化予防パンフレット」の配布 ・糖尿病連携手帳活用促進の立て札を調剤薬局に配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健医療連携体制」の取り組み継続 ・医療従事者向け研修会・講演会の開催 ・症例検討会の開催 ・住民向け啓発活動として、3市町での健康フェアにおける健康教育 ・世界糖尿病デーに併せ、ブルーライトアップの実施 ・糖尿病手帳活用に連携促進立て札の作成・配布 ・患者向けパンフレット等追加作成
成果発表会	(令和2年2月24日に予定されていたが新型コロナウイルス対応のため中止)	

3 市町支援

地域の健康課題解決のため市町の保健・医療・介護・福祉等会議への参画と保健所主催で会議等を開催している。

(1) 市町と保健福祉センターとの事業検討会

市町と保健福祉センターの保健福祉事業について協働して取り組むため、支援要望の確認や意見交換のため各市町を巡回して保健福祉事業連絡会を開催した。

表3 保健福祉事業連絡会の開催状況 (令和元年度)

市町名	実施日時・会場	出席者	内容
かほく市	令和元年5月20日(月) 10:30~12:00 かほく市宇ノ気保健福祉センター	市町： 保健福祉担当課長 〃 担当者 保健福祉センター： 企画調整課長 健康推進課長 健康推進課担当課長 企画調整課専門員 等	・市町保健福祉活動における重点事項と保健所への支援要望等について ・保健福祉センターの業務について ・意見交換
白山市	令和元年5月24日(金) 9:15~11:30 健康センター松任		
野々市市	令和元年5月22日(水) 10:00~11:30 野々市市保健センター		
津幡町	令和元年5月16日(木) 13:30~15:00 津幡町役場		
内灘町	令和元年5月13日(月) 14:00~15:30 内灘町保健センター		

(2) 市町支援実績

表4 市町支援状況 (令和元年度)

	策定・地区診断の保健計画	母子保健	健康増進	生活介護支援	介護予防	歯科保健	感染症	精神保健福祉	難病	介護保険	健康危機管理	その他	計
実施回数	7	133	53	2	4	4	4	69	-	30	8	11	321
参加延人数	142	1,376	764	28	42	79	921	-	-	634	287	165	4,438

※市町が主催した研修会・会議等で行った市町支援も含む

第 3 節 学会発表

1 北陸公衆衛生学会（第 4 7 回）

開催日：令和元年 1 1 月 1 1 日（月）

開催地：富山県

発表方法：口頭発表

石川県石川中央保健福祉センターにおけるひきこもり支援について

○河畑 沙織、馬木 美里、原 みどり、新田 悦子、伊川 あけみ（石川県石川中央保健福祉センター）

〔目的・背景〕

内閣府調査によると全国でひきこもり状態にある方は、15 歳から 39 歳では約 54 万人、40 歳から 64 歳では約 61 万人と推計されており、ひきこもり当事者及び家族の高齢化が問題となっている。ひきこもり支援については、個別相談による当事者や家族支援だけでなく、関係機関との連携した支援が重要であると考え、ひきこもり状態からの回復を目指し、当センターで行った取り組みについて考察したので報告する。

〔取り組み・結果〕

（1）普及啓発

ホームページや市町広報への掲載、関係機関への案内文書送付等で、当センターの取り組みについて普及啓発を行っている。

（2）平成 30 年度の相談状況

ひきこもり相談者数は 37 名で、平成 28 年度（26 名）と比べ年々増加していた。初回相談者は両親が 26 名と最も多かった。相談内容は、両親が高齢になり今後のことが心配、ひきこもりが長期化しており今後どうしていけばよいか等の相談が見られた。当事者の年代は 20 代が最も多く、次いで 30 代が多かった。ひきこもり始めた年齢は 10 代と 20 代が最も多く、ひきこもり期間は 10 年以上が 11 名、1～3 年未満が 7 名だった。相談経路は市町の窓口や広報が 11 名、社会福祉協議会が 5 名、ホームページが 5 名の順で、近年は地域包括支援センターからの相談が増えている。精神科受診歴のある方は 19 名で、うつ病が 5 名、統合失調症が 2 名だった。年度末の状況は支援継続が 21 名、単発相談で終了が 8 名、他機関紹介が 5 名、精神科受診が 3 名だった。

（3）家族教室

当センターでは平成 15 年度から月 1 回、家族が困っている問題を語り合い、ひきこもりへの理解を深め、家族としてのあり方や対応について学ぶための家族教室を開催している。平成 30 年度は定期教室を 13 回開催し、参加者は実 11 名、延 29 名だった。また定期教室とは別に、家族交流会としてひきこもり当事者や家族サポーターとの交流会を 4 回開催し、実 16 名、延 22 名が参加された。サポーターとの交流会に参加した家族からは、当事者の話が聞いてよかった、改めて自分の対応を振り返る機会となった、などの声が聞かれた。参加者の中には、子どもが仕事へ行くようになった方や、自身の体験を他の人に伝えたいとの思いを持って、家族サポーターとして活動されている方がいる。

（4）ひきこもり対策ネットワーク会議

当県では、石川県こころの健康センターが中心となり、年 1 回ネットワーク会議を開催しているが、圏域での話し合いが十分にできないという課題があった。そのため、平成 30 年度から各支援機関が相談者の相談内容に応じた適切な支援を行うことができるよう、保健・福祉・教育・就労支援機関等における現状や支援内容について情報交換を行い、各機関相互の連携体制の構築と強化を図ることを目的に、ひきこもり対策ネットワーク会議を開催している。平成 30 年度は関係機関の支援体制について、情報交換や意見交換を行った。会議を通じて、横のつながりを持って地域社会で見守っていくこと等が重要だと確認できた。

〔考察〕

ひきこもりの実態に比べ、相談件数が少ないことが課題である。ひきこもりが長期化すると改善しにくいいため、早期に関係機関につながるよう啓発普及を強化したい。また、ひきこもり始めた年齢が若年層に多いことから、学校教育分野との連携強化に努めていきたい。家族教室は、家族の孤立化を防ぎ、家族自身の居場所や精神安定の場にもなっており、継続的に開催することが必要と考える。ネットワーク会議は、参加者同士の顔の見える関係が構築され、今後支援していく上で有効である。今後もこれらの取り組みを継続し、家族だけで抱え込まない地域づくりを目指し、ひきこもり状態の方の回復支援を行っていきたい。

第4節 指導監査・実地指導

1 社会福祉施設指導監査

表1 社会福祉施設指導監査状況

(令和元年度)

施設種類及び施設数	目的	内容
老人福祉施設： 8 児童福祉施設： 4 4 障害者施設： 3	社会福祉法人、社会福祉施設の事務処理及び運営等が適切に行われるよう、実施指導を行い、社会福祉の推進を図る	・利用者及び職員の健康管理 ・災害対策 ・感染症防止及び衛生管理 ・事故防止、身体拘束等防止 ・個別援助計画の把握 など

2 介護保険

(1) 介護保険関係業務

表2 介護保険関係業務一覧

(令和元年度)

区 分	業 務 内 容
介護保険事業計画に関すること	・管内サービス基盤及びサービス提供等の現状把握 ・市町介護保険事業計画協議会等への参加
介護認定に関すること	・要介護認定に係る訪問調査員に対する研修の実施補助 ・介護認定審査会委員に対する研修の実施補助
介護保険審査会に関すること	・介護保険認定に関する処分の審査請求に係る専門調査
介護保険施設等従事者への研修	・高齢者施設職員への研修（感染症、口腔ケア）
高齢者虐待防止に関すること	・高齢者虐待防止ネットワーク会議等への参加
市町及び介護保険施設等への指導に関すること	・介護保険市町（保険者）事務支援の実施 ・介護保険施設等実地指導の実施

(2) 介護保険施設等実地指導状況

石川県介護保険施設等指導監査要綱等に基づき、介護サービス事業者等のサービスの質の確保・向上を図ることを目的に実地指導を行う。

表3 介護保険施設等実地指導状況

(令和元年度)

区分	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護療養型医療施設	介護医療院	居宅介護サービス											
					居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴	訪問看護	訪問介護	居宅療養	通所介護	通所介護	短期生活	短期療養	特定施設	福祉用具
件数	4	1	1	1	-	2	-	1	1	-	3	2	2	1	1	-

第5節 研修・学生指導

1 地域保健従事者への研修

健康課題解決のため、関係者への知識・技術等の習得に係る研修を企画し実施した。

表1 地域保健従事者向け研修状況

(令和元年度)

項目	日時・会場	対象	研修内容	参加者数
特定健診・保健指導従事者研修会	令和元年7月17日(水) 13:30~16:30 石川県消費生活支援センター	管内保健指導従事者	事例検討会 「健診データを読み取り、保健指導を考える」 講師：元ブリヂストン磐田工場 保健師 門田しず子 氏	32人
特定給食施設管理者等研修会	令和2年1月7日(火) 13:30~15:30 石川県リハビリテーションセンター	栄養教諭、学校栄養職員、学校勤務調理師、調理員 保育所長、保育所栄養士、調理師、行政栄養士等	講演 「幼少期からの塩分摂取量と生活習慣病の関係について」 — 幼少期からの減塩はなぜ必要か — 講師 白山石川医療企業団 顧問 久保田幸次 先生 (公立松任石川中央病院 循環器内科医師)	44人
管内新任保健師研修会	令和2年2月14日(金) 10:00~12:30 石川中央保健福祉センター	管内の新任 期保健師・中 堅期保健師	「実践力アップ事例検討会」 講義「事例検討会の持ち方について」 講師：県立看護大学 教授 塚田久恵 氏 事例検討 ファシリテーター：塚田教授 新任者2名の事例について検討	15人

2 医師臨床研修

平成16年度から医師に対する2年間の臨床研修が必須化(医師法等の一部改正)し「地域保健・医療」研修の一環として保健所における研修を実施している。

表2 医師臨床研修受入れ状況

(令和元年度)

病院名	研修医数	研修期間
公立松任石川中央病院	1	R2.3.2(月)~3.6(金)

3 学生実習指導等

(1) 学生実習オリエンテーション

看護学生に対する保健所の業務内容の説明

表3-1 オリエンテーション開催状況

(令和元年度)

日時	学校	参加者数
平成31年4月24日	金沢医科大学看護学部 県立総合看護専門学校第三看護学科	51名
平成31年4月25日	金沢大学医薬保健学域保健学類看護学専攻 県立看護大学	45名

(2) 現地実習

看護学生、管理栄養士学生に対する各課担当者からの講義及び演習等

表3-2 現地実習状況

(令和元年度)

学校名	学生数	実習期間
県立看護大学	34人	平成31年4月、令和元年5月、6月 (2日間×3G)
金沢大学医薬保健学域保健学類看護学専攻	9人	令和元年7月 (2日間)
金沢医科大学看護学部	19人	令和元年7月 (2日間)
金沢学院大学人間健康学部健康栄養学科	5人	令和元年7月 (5日間)